

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	111人	算数	112人	理科	111人
第5学年	国語	118人	算数	117人	理科	118人

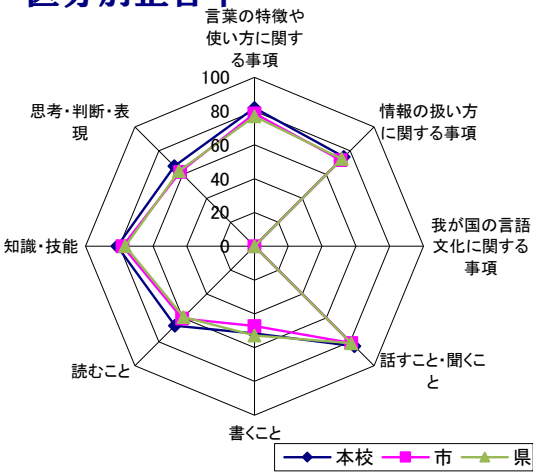
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.9	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	74.8	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	83.6	81.0	81.1
	書くこと	51.6	47.2	52.8
	読むこと	66.6	60.5	59.3
観点	知識・技能	81.2	78.0	76.5
	思考・判断・表現	67.1	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

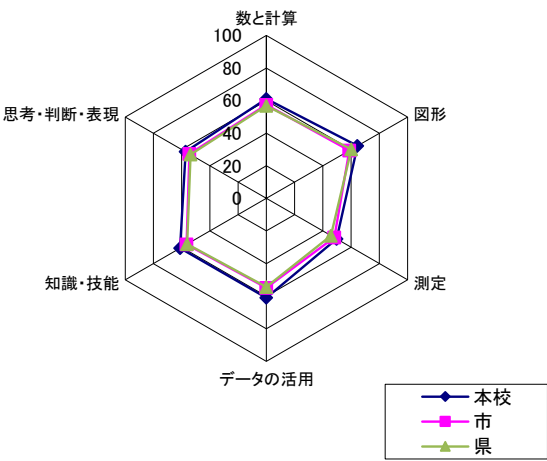
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は81.9%で、県平均より5ポイント上回っている。 ○漢字を正しく書けている児童が多く、基礎的な漢字の習得状況が良好である。 ○ローマ字の読み方を問う問題では正答率が86.5%で、県平均より7.1ポイント大きく上回っている。 ●主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ問題では正答率が63.1%で、県平均と同等である。	・漢字ドリルや小テスト、AIDドリルを活用して反復練習を行い、適宜既習内容の確認を行うことを今後も継続していく。 ・授業内で扱う文章で主語と述語について確認する機会を設け、学習内容の定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は74.8%で、県平均より1.7ポイント上回っている。 ●正答率が高いが、無解答率が4.5%で県より2.8ポイント上回っている。	・単元の導入に意味調べをするなど、国語辞典を使用する機会を意図的に設け、語句の並び方など、基本事項について正しく理解できるよう定着を図る。 ・他の教科でも意味の分からない言葉が出てきた際には国語辞典を用いて調べるよう促し、国語辞典に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は83.6%で、県平均より2.5ポイント上回っている。 ○話し手の伝えたいことの中心を捉えることができる児童が多い。 ●県や市よりも無解答率が高く、特に司会者の役割として適した発言を選ぶ問題では2.7%で、市平均より1.4ポイント上回っている。	・全ての教科学習や校外学習において、相手の話の要点を正しく理解できるように「誰が」「何を」述べたか等のポイントを押さえ、メモを取る技術を高める指導を継続的に行う。 ・国語科だけでなく、他教科の学習においても、グループ活動の話し合いでは相手の伝えたいことの中心を捉えて聞いたり、伝えたいことを明確にして話したりすることを意識させる。
書くこと	平均正答率は51.6%で、県平均より1.2ポイント下回っている。 ●段落の役割を理解しているか問う問題の正答率は40.5%で、県平均を1.2ポイント下回っている。 ●他の領域の問題と比べて無解答率が22.5%と高く、県平均と比べて3.9ポイント上回っている。「話すこと・聞くこと」での記述式の問いでは無解答率が2.7%だったため、原稿用紙の使い方に課題があると考えられる。	・国語科だけでなく、他の教科でも「自分の考えを書く」活動を積極的に取り入れ、原稿用紙の使い方や段落構成の作り方を指導していく。 ・問題文を最後まで読み、問われている内容や書き方の条件を理解して取り組めるよう指導を継続する。
読むこと	平均正答率は66.6%で、県平均を7.3ポイント上回っている。 ○全8問中5問は無解答率が0%であり、回答率が高い。 ●後半の問題になるほど無解答率が増えていき、最後の問題では無解答率が42.3%と、全ての問題の中で最も高い。設問の文章を読むことに時間がかかり、解答することができなかったと考えられる。	・朝の読書活動や図書室の利用、読み聞かせをすることで様々なテーマの文章を読む機会を設け、比喩表現を学べるよう指導する。 ・叙述をもとに人物の気持ちの変化を捉えられるよう、語彙を増やすことで、言葉に着目して場面の変化を意識できるような指導を続けていく。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.1	57.4	56.9
	図形	64.5	58.7	60.1
	測定	49.8	48.1	45.7
	データの活用	61.0	54.9	54.3
観点	知識・技能	61.2	56.6	56.2
	思考・判断・表現	57.3	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

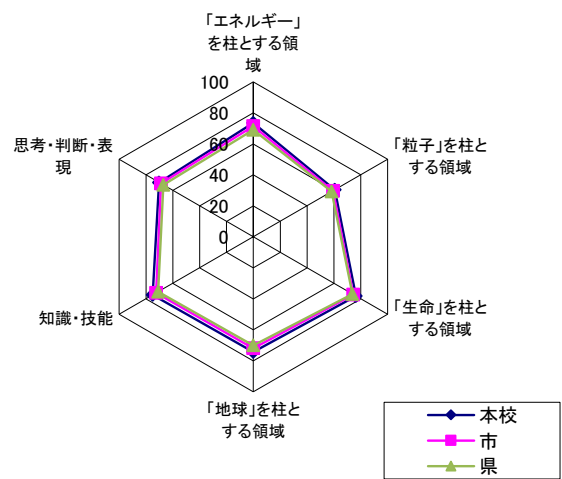
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は61.1%で、県平均と比べて4.2ポイント上回っている。 ○整数のひき算やかけ算など、基礎的な計算では正確に計算することができている。ドリル学習等、計算練習に継続して取り組んでいる成果が見られる。 ●割り算の余りの意味を理解し、計算の間違いを説明する問題では、県平均を上回るものの30.4%と正答率が低い。無解答率も24.1%ととても高く、文章で説明することを難しいと捉えている児童が多くいる傾向が分かった。	・今後も基礎基本の定着を図るため、ドリル等を活用して計算練習を繰り返すようにする。 ・普段から公式や仕組みの意味、計算の方法など、授業で理解したことなどを文章で表現する機会を意図的に設けていく。
図形	平均正答率は64.5%で、県平均を4.4ポイント上回っている。 ○正三角形を作図する問題では、正答率が82.1%と県平均より高く、多くの児童が作図の仕方を正しく理解していることが分かる。 ●二等辺三角形の性質を使って頂点を見つけ出す問題では、県平均を上回るものの正答率が38.4%と低い。基本的な性質は理解しているが、図形の向きが変わることで解答できなくなってしまう傾向がある。	・具体物やデジタル教材等を活用し、図形に対する理解を深めるための補助としたい。また、形の敷詰めやグループ分けなど具体物を操作しながら仲間と話し合うような活動を意図的に設け、多面的な見方も育めるようにしていく。 ・定規やコンパスの扱い方、線の引き方など、丁寧に作図する機会を充実させ、今後も作図に必要な技能を高めていきたい。
測定	平均正答率は49.8%で、県平均を4.1ポイント上回っている。 ○時間と時刻の関係を理解し、時刻を求める問題では、県平均を8.3ポイントと大きく上回っている。 ●はかりの目盛から重さを答える問題では、県平均を上回るが正答率が33.0%と低い。目盛自体は読み取れている児童が多いが、かごの重さを引かないで誤答している割合が多い。	・児童の身近にある問題を取り上げたり、算数科だけでなく普段の生活の中で重さを量ったり、長さを測ったりする活動を行い、体験を通して実感的に捉える機会を設け、量感を豊かにする。
データの活用	平均正答率は61.0%で、県平均より6.7ポイント上回っている。 ○二次元の表の数値から正しい答えを選択する問題では、県平均を9.9ポイントと大きく上回っている。 ●データの活用領域の3つの問題において、どれも無解答率が約20～30%と非常に高い。これが最終問題ということからも、文章の読解力やその速度が課題である。不慣れによる対応の難しさなどによって取り組む時間が確保できず、終わらなかった児童も多かったのではないかと推測する。	・算数科だけでなく、社会科や理科等の他教科でもグラフのデータを分析することを積極的に行い、どう読み取ったか根拠を明確にして分かったことを相手に分かるように伝え表現する力を身に付けさせる。また、係活動など児童の身近なもので積極的にデータを整理するような活動を取り入れるようにする。 ・全ての領域に関係するが、文章や資料から読み取った情報を基に解答方法を考えるような問題に取り組む機会を積極的に取り入れていく。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.5	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	60.7	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	76.4	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	74.3	72.0	70.1
観点	知識・技能	75.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	70.2	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は73.5%で、県平均と比べて4.4ポイント高い。 ○磁石に関する問題では、平均正答率は64.3%で県平均と比べて10.7ポイント大きく上回った。電気を通すものと磁石につくものなど、それぞれの物質の性質を正しく理解できている。 ●電気に関する問題では、平均正答率は55.4%で県平均と比べて7.2ポイント下回る。電気に関する言葉を使って回答できていない児童や無回答の児童も多いことから、正しい理科用語を覚えていないと考えられる。	・授業の中で実験結果や資料から何が言えるかを、正しい理科用語を用いながら、自分の言葉で表せるようにする。また、単元の終末でも基礎的な語句を確認し、学習内容の確実な定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は60.7%で、県平均と比べて2.4ポイント高い。 ○物の体積が同じでも、質量が異なることを正しく理解している。 ●質量保存の法則は正しく理解できているが、問われている内容を正しく読み取ることができていない誤答が目立った。	・問題図や問題文を読み取る際には、自分の体験と問題文を関連付けて考察できるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は76.4%で、県平均と比べて2.6ポイント高い。 ○植物を実際に身近に置き、毎日観察したことで、植物の成長を目の当たりにして自分の知識と結び付けて理解することができた。 ●昆虫の足の数についてはしっかりと理解できているが、体のつくりを正しく覚えていない。 ●モンシロチョウとトンボの成長過程において、さなぎの有無という違いがあることは分かっているが、言葉での説明が足りない。	・差異点や共通点を基に、対象を比較しながら観察・実験できるような授業を展開していく。また、実験結果から考えられることを思考を整理しながら、自分の言葉で詳しく表せるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は74.3%で、県平均と比べて4.2ポイント高い。 ○温度計の扱い方の問題では、平均正答率は90.2%で県平均と比べて7.5ポイント大きく上回っている。基礎的な器具の扱い方が身に付いていることが分かる。 ○太陽の日陰の位置関係の問題では、平均正答率は80.4%で県平均と比べて2.6ポイント上回っている。太陽と日陰の位置関係を正しく理解しており、日光が遮られることによって影ができることを図から正しく読み取ることができている。	・基本的な学習内容について反復して身に付ける機会確保のためにICTを活用したり、実物を用いて体験する活動を年間を通して設定したりするなど、更に指導の充実を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思う。」についての肯定割合は92.2%で、県の肯定割合と比べ7.6ポイント高い。「自分はよく勉強ができる方だと思う。」についての肯定割合は77.4%で、県の肯定割合と比べ10.8ポイント高い。本校の重点合言葉である「育てよう自分の『いいね』広げようみんなの『いいね』」が児童にも浸透している可能性がうかがえる。これからも児童のよさを教師主導で発信したり、児童同士で認め合える場面を設けたりし、学び合える集団づくりを続けていく。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」についての肯定割合は84.3%で、県の肯定割合と比べ6.1ポイント高い。児童は分からないことを素直に聞くことができていることがうかがえる。一方で、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」についての肯定割合は47.8%で、県の肯定割合と比べ9.6ポイント低く、難しい問題に直面すると自分で熟考せず、すぐに人に頼ってしまう児童がいることも考えられる。今後は、本やインターネットから課題解決に必要な情報を見つけたり選んだりする方法を指導し、疑問や難問であっても自ら分かるまで調べられるようにしたい。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」についての肯定割合は95.6%で、県の肯定割合と比べ7.4ポイント高い。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」についての肯定割合は83.5%で、県の肯定割合と比べ8.1ポイント高い。協動的な学びの充実を考えて授業改善を行ってきた成果と考えられる。今後も、授業中に積極的に話し合いを通した活動を取り入れていき、児童同士での学び合いを促進していきたい。

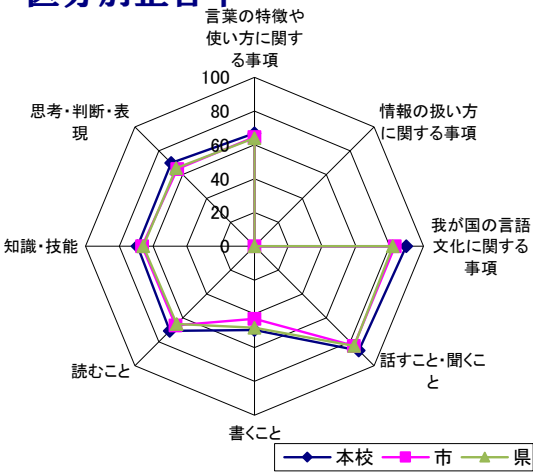
●「家で、学校の授業の復習をしている。」についての肯定割合は43.5%で、県の肯定割合と比べ21.4ポイント低い。また、「家でテストでまちがえた問題について勉強をしている。」についての肯定割合は59.2%で、県の肯定割合と比べ7.1ポイント低い。復習することが定着していない児童が多いことが分かる。宿題でテストの解き直しの問題をやらせるなど意図的に復習に取り組ませるようにしていきたい。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」についての肯定割合は63.5%で、県の肯定割合と比べ10.8ポイント低い。家庭学習のめあてや内容の決め方を指導するだけでなく、児童が実際に行った自主学習や復習の例を紹介することを通して家庭で計画的に勉強できるようにしていきたい。また家庭と連携を図ることで、家庭学習への意欲を高めるなど、習慣化できるようにしていきたい。

●「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」についての肯定割合は60.9%で、県の肯定割合と比べ13.7ポイント低い。「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」についての肯定割合は67.8%で、県の肯定割合と比べ10.1ポイント低い。児童は学習した内容を生活と結び付けられていないということがわかる。教育活動全体において、教師が児童の学びが生活のどんなところで役立っているかについて紹介したり、児童が互いに共有したりする活動を取り入れることで学習内容と生活との結び付きを意識させたい。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.9	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	89.8	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	87.3	83.3	83.4
	書くこと	49.6	42.8	48.2
	読むこと	70.9	66.1	65.1
観点	知識・技能	69.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	69.7	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

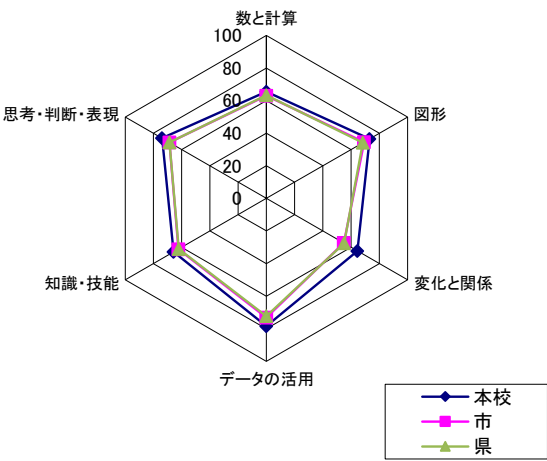
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は66.9%で、県平均を2.8ポイント上回る。 ○漢字の読み方を答える問題はよくできている。 ●漢字で書き表す問題の正答率は低い。また、修飾語がどの言葉を詳しくしているかを見つけること、言葉の意味を理解して適切に使うこと、熟語の構成の理解には課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習の時間を活用し、既習の漢字に繰り返し触れる機会を設ける。また、文章の中で学習した漢字を使うことができるように指導をしていく。 ・文法的な内容を指導する時間を設けたり、児童が書いた文章に対して文の組み立てや言葉の使い方を指導したり、読みの時間に文の構造の理解を図ったりする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は89.8%で、県平均を7.9ポイント上回る。 ○ことわざの意味を理解し、適切に使われている文章を選ぶことができる。	・ことわざ、慣用句、故事成語などについて、教師が日常の話の中で活用し、意味や使い方に触れる機会を今後も設けていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は87.3%で、県平均を3.9ポイント上回る。 ○話を聞きながら、話題の中心が何かを把握し、話の流れに沿って、自分の考えやその理由を述べるができる。 ○よい話し方を理解し、話の「内容」だけでなく、「話し方」に目を向けて聞くことができる。	・授業の中で、ペア・グループ・学級全体など、様々な学習形態を使って、自分の考えとその理由を述べたり書いたりする機会を積極的に設ける。 ・授業の中や朝会での話などを用いて、話の構成や要点をつかめているかを確認するような発問や活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は49.6%で、県平均を1.4ポイント上回る。 ●文章を書く際に、内容のまとまりを考え、段落を作ることが難しい児童が39.0%いる。 ●作文用紙の使い方(段落の頭を一字下げる)について定着していない児童が13.6%いる。 ●文章を書かなかった児童が16.1%いる。	・視写・端末で作文した後に清書をするなど、用紙を使って作文指導をする時間を設けるようにする。その際に、用紙の使い方についてもしっかりと指導し、理解と定着を図る。
読むこと	平均正答率は70.9%で、県平均を5.8ポイント上回る。 ○物語文で、話の流れを捉えながら人物の気持ちの変化を想像することができる。 ○説明文で、指示語が指している内容を理解することができる。 ●本文の表現を適切に書き換え、決まった字数でまとめて記述することに課題が見られる。	・文章の全体像(物語の展開、説明文の構成)や話の中心(中心人物の心情の変化、筆者の主張)を捉える授業を展開する。 ・朝の学習の時間を活用し、短文を読んで答える問題に取り組むなど、様々な問題のパターンに触れる機会を設ける。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.5	63.0	63.3
	図形	73.1	69.2	68.3
	変化と関係	64.4	54.8	55.0
	データの活用	78.4	73.1	72.3
観点	知識・技能	65.7	62.3	62.1
	思考・判断・表現	73.9	68.7	68.7



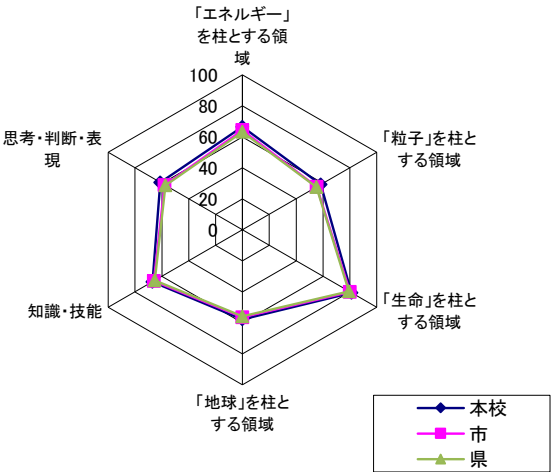
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は65.5%で、県平均より2.2ポイント高い。 ○計算の誤りを説明する記述式の問題の正答率は、県平均よりも、10.2ポイント上回っている。 ●小数二位×整数の計算の仕方を問う問題では、県の平均正答率よりも、4.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題を解くだけでなく、説明したり、理由を問いかけたりする活動を多く取り入れ、説明する力を高めていける手立てを講じる。 ・計算問題をする中で誤りがあったときに、なぜ誤ったのか、どこを誤ったのかに注目する声掛けを行い、同じ誤りをしないように支援していく。
図形	平均正答率は73.1%で、県平均より4.8ポイント高い。 ○ものの位置の表し方からもとにする位置を考慮することができるかを見る問題では、県平均よりも、10.1ポイント上回った。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求めることができるかを見る問題での無回答率は、10.3%であった。	・三角定規の各角度を実際に測る体験を通して、三角定規と角の大きさの理解度を高めていく。 ・具体物を用いたり、タブレットを活用したりすることを通して、図形についての豊かな感覚を養っていく。
変化と関係	平均正答率は64.4%で、県平均より9.4ポイント高い。 ○割合を使った長さの求め方を説明する問題では、県平均よりも、13.2ポイント上回った。 ●割合を使った長さの求め方を説明する問題では、県平均よりも、13.2ポイント上回っているが、正答率は約5割である。	・表の見方や式が表す意味を問いかけながら、表と式の関係性に気付くことができるように支援する。 ・説明することへの抵抗感を和らげるために、説明する問題では、少人数で説明し合う場を設定する。
データの活用	平均正答率は78.4%で、県平均より6.1ポイント高い。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取る問題では、県平均よりも、10.1ポイント上回った。 ●二次元の表の空欄がどのような人数を表しているかを説明する問題の無回答が12ポイントである。	・表を扱う問題では、表のタイトルや行と列が何を表しているかなどを見方を重点的に指導し、それぞれの値が何を表しているかを理解できるよう、授業改善を図る。 ・4年生で学習した「整理のしかた」の内容の忘れが推測できるため、今まで学習したことが確実に身に付くよう、4年生で学習した内容を宿題とする等、家庭学習の充実を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	66.5	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	58.4	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	81.2	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	57.8	56.4	55.8
観点	知識・技能	67.0	66.0	65.3
	思考・判断・表現	61.2	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は66.5%で、県平均と比べると3.3ポイントと上回っている。 ○直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて理解し、プロペラが同じ速さで回転する図を選択する問題に対しては、平均正答率が69.5%であり、県平均より12.0ポイント上回り、直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについての理解は高い。 ●図で示された回路における乾電池のつなぎ方の名称を答える問題に対しては、平均正答率が66.1%であり、県平均より1.2ポイント下回っており、無解答も12.7%であるため、定着度が低い。	・既習の内容について家庭学習、朝の学習タイムなどを活用し、さらに定着を図る。 ・仮説、実験、結果、考察の流れを意識した授業づくりに努める。また、考察や振り返りの時間を通して、科学的な思考を育てていく。 ・理科の用語を正しく扱うことができるように、学習した用語について説明したり、用語を使って結果をまとめたりする機会を増やしていく。 ・今回の乾電池のつなぎ方の実験のように、実験器具の使い方や、器具が示した結果から分かることの理解を深めるために、実際に器具に触れる機会や体験する機会を増やしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は58.4%で、県平均と比べると3.3ポイントと上回っている。 ○空気を温めた時の体積の変化についてを記述する問題に対しては、正答率が36.4%で県平均より6.7ポイント上回っているが、無回答が8.5ポイントいた。 ●湯気について適切に述べた文章を選ぶ問題では、正答率23.7%で、県平均より5.9ポイント下回った。	・「粒子」の領域は、目に見えなかったり、イメージをもちにくかったりするため、児童が理解をしやすいように視覚的に確認できるように工夫をする。 ・ICT機器を活用して、実際にどのように変化しているかを動画で見ながら確認することで、児童の理解を深めていく。 ・学習を進めていく上で、具体例を出して学習内容を日常の場面と関連付けさせるなどの工夫をして、生きて働く知識を身に付けられるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は81.2%で、県平均より1.9ポイント上回っている。 ○骨のはたらきについて答える問題では、平均正答率は46.6%で、県平均より4.6%上回った。 ●人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨の数を着目して差異を答える問題では、正答率が81.5%で、県平均と比べると、0.5ポイント下回った。	・実験や観察の結果をまとめる際に、学習した用語を使って、結果から分かった考察を自力で考えたり、話し合ったりする場面を取り入れ、理科の用語を正しく理解することができるようにする。 ・自然事象への気づきから問題解決への理解が深まるように、日常的に動植物や自然事象に関わるが多くなるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は57.8%で、県平均より2.0ポイント上回っている。 ○実験結果から水が染み込みやすい粒の特徴を答える問題では、平均正答率は89.8%で、県平均より7.2ポイント大きく上回っている。 ●北の星の動きについて記述した文章を選ぶ問題では、平均正答率は49.2%で、県平均より4.1ポイント下回った。	・日常生活と学習内容が結び付くように、既習事項が生活のどのような場面で利用されているかを振り返る機会を増やしていく。 ・児童がイメージをもちやすくなるよう、模型などを利用し、イメージが共有できるように場面設定をする。また、ICT機器を利用し、動画や画像で確認するなど、知識を補う機会を作るように努める。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思う」の項目について、県の肯定割合より5.8ポイント高い。安定した学校生活の中で自分自身のよさにさらに気付き、高めることができるよう、今年度の重点合言葉「育てよう自分の『いいね』広げようみんなの『いいね』」に関する内容を様々な教育活動に取り入れて称賛の機会を作ったり、教師からの声掛けをしたりすることで、自己肯定感・自己有用感を高められるよう支援したい。また、友達同士で互いのよさを認める活動を取り入れ、仲間と学ぶ喜びも育てていく。

○「先生は学習についてほめてくれる」という項目について県の肯定割合より12.2ポイント高い。児童が「自分の学びを認められている」と実感していることの表れである。これを今後の学力向上や学習意欲の育成につなげていきたい。「ほめる」だけでなく、「どう良かったか」を具体的に伝える指導を続けていく。

○国語、社会、算数、理科の「学習は将来のために大切だと思いますか」という項目について、いずれも県の肯定割合より高かった。また、本学力調査においても、これらの教科の平均正答率が県の平均を上回っており、学力面でも良好な結果が見られた。このことから、児童が日々の学習の中で「学ぶことの意味」や「将来に向けての学習の価値」をしっかりと実感していることがうかがえる。今後も、児童が「学ぶ楽しさ」や「できるようになる喜び」を感じられるよう、学習内容と生活や社会とのつながりを意識した指導や達成感を味わえる場面の工夫を重ねていく。また、主体的に学習に向かう姿勢をさらに育てていくために、自分のめあてをもって学習に取り組んだり、学んだことを振り返ったりする活動を充実させていく。

●「学校のきまりを守っている」「家でのかまりや約束を守っている」の項目について、肯定的な回答の割合がやや低く、学校生活や家庭生活におけるルールや約束への意識に課題が見られた。「なぜこのきまりがあるのか」「きまりを守ると、どのような良いことがあるのか」といったことを、子どもたち自身が考えたり、友達と話し合ったりする時間を大切にしてい。きまりを守っている行動に対しては、教職員が共通理解をもって積極的に認め、子どもたち同士でもよい行動を認め合えるような風土づくりに努めていく。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」の項目について、県の肯定割合より7.8ポイント低い。児童に対しては、家庭学習では「授業で習ったことをもう一度見直すこと」が学力の定着につながるということを具体的に伝えていく。例えば、「授業で解いた問題をもう一度解く」「漢字を1日1回復習する」など、取り組みやすい方法を紹介し、内容や方法を自分で選べるよう支援する。「まちがい直し」や「繰り返しの練習」が力になることも意識付ける。また、保護者にも「効果的な家庭学習」や「声かけ・見守りの大切さ」を伝え、家庭と連携して習慣化を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを書く活動の充実	つなぎ言葉を効果的に使った段落構成の指導や自分の考えを文章で表現する機会を増やすことで、書くことへの抵抗感の軽減と書く力の育成を図っている。	5年生においては、3教科すべてで記述式問題の正答率が、県平均を上回った。しかしながら、選択式の問題と比較すると記述式の正答率がやや低いことから、今後も授業の中で書く活動を積極的に取り入れ、指導を継続していく必要がある。
自分の考えを根拠をもって説明する活動の充実	授業の中で根拠を明確にして自分の考えを表現し合うことを通して、児童同士が学び合い、思考力が深まるように指導している。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」についての肯定割合が、県平均と比べて高い。協働的な学びの充実を考えて授業改善を行ってきた成果と考えられる。今後も、児童同士での学び合いを促進していきたい。